

科目名	国際情報論特殊研究	担当者	ヤスエ 安江 ノブオ 伸夫	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	---------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	本講座は、メディアや民主主義社会に対する、強権・権威主義による挑戦と課題についての知識を修得すること（一般目標(GIO)）により以下の能力を身につけることを目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>民主化後に強権政治に戻るロシア東欧のような例がある。中東は却って混乱状態になった。強権・権威主義国家が影響力を強め、日本や米国のような民主主義国家でも言論の自由を含めた従来の普遍的価値が揺さぶられている。この現状、背景を、言論状況を軸に理解する術を修得する。</p> <p>民主化が実現し持続する条件について知識を修得する。中国などの非民主化国・強権政治の民衆が普遍的価値を追求する上で、メディアが果たしている役割を理解する。</p> <p>政治権力やメディア、民衆が、政治や国際関係を語る際に陥るステレオタイプなどの特質を学び、メディアや民衆が果たすべき役割についての知識を身につける。</p> <p>政治体制や価値観、歴史発展段階の異なる国の民衆人々と向き合う人間力を想像する。</p> <p>【行動目標 (SB0s)】</p> <p>民主主義とは常に問題点を指摘し、修正できる仕組みであることが説明できる (知識・想起)。中国のような強権国家で改革を訴える言論は、どう発信されるのか事例を列挙できる (知識・想起)。</p> <p>言論状況を補助線として、民主化しない強権国家 (中国)、民主的に強権指導者が選ばれた国家 (旧ソ連・東欧)、民主化から無秩序が生まれた国家 (中東) とを関係づけ説明できる (知識・解釈)。</p> <p>強権・権威主義政治に関する海外の学者の分析を、日本で起きている強権・権威主義的な政治、リベラル派の政府批判の言論に対する抑圧、社会からのバッシングの状況説明に活用できる (知識・問題解決)。コロナで加速する新たな潮流の説明に使用できる。(知識・問題解決)</p> <p>民主化に必要な言論の自由などの条件を法則化し測定できる。(技能)</p> <p>政治体制やメディア環境の異なる社会とのコミュニケーションに必要な態度が身につく。(態度)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本教材及び参考図書等を熟読する (自習) 【SB0①&②】 課題に沿って、事例やデータを収集し、問題点を抽出、分析する (自主研究) 【SB0②&③】 抽出した問題点を論ずるに必要な文献・資料を検索・整理し、それに対する考え方をレポートとしてまとめる (レポート作成) 【SB0②&③&④】 上記の過程で、manaba folio の掲示板機能を利用した受講生同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生とのディスカッション、メールなどで疑問点に関し、相談・質問する。(ディベート) 【SB0②&③&④&⑤】 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>1 単位 (課題レポート 1 本分) につき最低 45 時間の学修時間を要する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本教材・参考文献の読み込み、データの探索：20 時間 レポート執筆：10 時間 レポートの推敲、教員の添削指導：15 時間 <p>1 科目 4 単位に対し、45 時間×4 の時間が必要ということになる。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材 1 の「草稿」は、レポート課題 1 は第 11 回 (7 月中旬) で、課題 2 は第 13 回 (7 月下旬) で提出。「最終稿」は課題 1、課題 2 のいずれも「学事歴で定められた日」までに提出する。</p> <p>後期：教材 1 の「草稿」は、レポート課題 1 は第 11 回 (1 月初め) で、課題 2 は第 13 回 (1 月中旬) で提出。「最終稿」は課題 1、課題 2 のいずれも「学事歴で定められた日」までに提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	レポート内容を、問題設定・論理的展開・歴史的展開・問題提起の面から検討し、全体の記載方法、注・参考文献の適切性・記載方法、最新の研究の反映や自らの研究分野との関連性などを評価する。
	観察記録	20%	スケジュールの順守の度合い、メールの送受信の状況、質疑応答の内容などを勘案する。
履修者への要望	日本が海外からどう見られているかを知るため、習慣的に、ニューヨークタイムズ (ネット版で十分) の日本に関する記事を読むことを勧める。国内メディアはテレビはもちろん、新聞は左派の『朝日新聞』、右派の『産経新聞』、経済界よりの『日本経済新聞』を 3 紙読むことをすすめる。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： ジェニファー・ウェルシュ（秋山勝 訳） 教材名： 『歴史の逆襲 21世紀の覇権、経済格差、大量移民、地政学の構図』（朝日新聞出版、2017年。原書出版は2016年）ISBN 978-4022514714 980円＋税</p>
	<p>1992年、「世界は民主主義に収斂する」と論じた日系米国人学者のフランシス・フクヤマ『歴史の終わり』の予想を誰もが信じた。だが見込みは外れた。その背景をカナダ人学者のウェルシュ『歴史の逆襲（2016年）』は論じた。強権体制を脱した中東は混乱で「IS」が跋扈した。難民が流入した東欧は民主国家から強権・権威主義に戻った。民主化したはずのロシアも、破綻した経済を強権主義指導者が戦争と言論弾圧で復興させ、国民の支持を集める。フクヤマは『IDENTITY（原書2018年）』で弁明した。格差で外された集団がアイデンティティ承認欲求を噴出させた。SNSが結集を進め、多数派形成に有利と見たポピュリズム政治が誘導し、そこにメディアが乗ったという。</p>
参考図書	<p>フランシス・フクヤマ（山田文 訳）『IDENTITY—尊厳の欲求と憤りの政治』（朝日新聞出版、2019年。原書は2018年） 川中豪編『後退する民主主義、強化される権威主義—最良の政治制度とは何か』（ミネルヴァ書房、2018年） スティーブン・レビツキー、ダニエル・ジブラット（濱野大道 訳 池上彰 解説）『民主主義の死に方——二極化する政治が招く独裁への道』（新潮社、2018年） 遠藤晶久、ウィリー・ジョウ『イデオロギーと日本政治 世代で異なる「保守」と「革新』（新泉社、2019年） 小熊英二、樋口直人『日本は右傾化したのか』（慶応義塾大学出版会、2020年） ジョン・ダワー（三浦陽一 訳、高杉忠明 訳）『増補版 敗北を抱きしめて（上・下）』（岩波書店、2004年）：米国占領下での日本の民主化について論じた。</p>
履修上のポイント	<p>世界の潮流の中で日本の変化を捉えて欲しい。冷戦直後、誰もが世界は民主主義体制に収斂すると信じた。しかし今日、日本や米国など民主主義国でも権威主義的傾向が強まる。政権批判するリベラルなメディアや団体を権力者が攻撃し、読者・視聴者も「反日的だ」とバッシングを行う。実はウェルシュやフクヤマは、中国や日本を扱っていない。米国には日本が米国占領下で民主化させた成功体験があった。韓国、台湾も冷戦時代に米国の影響下で民主化した。グローバル化とともに拡大した国内の格差で起きた疎外、激変の中での自己承認欲求、新興の強権・権威主義国家への嫉妬と恐怖心、SNSとポピュリズム政治による分断の深刻化を軸に関連づけを図りたい。</p>
レポート課題 1	<p>冷戦後から現在まで日本を軸にして世界の民主主義が置かれた流れをまとめよ（5000字程度）。 留意点： 国家が民主化するには必要な条件がある事を踏まえよ。</p>
レポート課題 2	<p>日本で反中・嫌中言論が生まれる背景について、具体的な例を挙げて、世界的な潮流の変化の観点から論述せよ（5000字程度）。 留意点： 豊かになれば民衆は権利を主張し中国は民主化すると思われていたことを念頭に。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 張博樹（石井知章、及川淳子、中村達雄 訳） 教材名： 『新全体主義の思想史』（白水社、2019年）ISBN 978-4560096994 4620円＋税</p>
	<p>著者は米コロンビア大学客員教授の中国人。中国社会科学院の学者だったが、天安門事件以来、母国に批判的な眼を持ち、2011年に渡米した。国内にはこの種の研究は難しいのが現状だ。中国国内の思潮（日本でいえば論調）は大きく9つに分けられるとする。それを共産党は一つの実験に力だまとめ、人々はその中で不自由を感じながらも党の顔色を見ながらやりくりしている。日本を見る目も「反日」一つではないことが理解できる。</p>
参考図書	<p>王冰『中国共産党とメディアの権力関係』（明石書店、2018年） 陳雅賽『中国メディアの変容』（早稲田大学出版部 2017年）</p>
履修上のポイント	<p>中国社会の構造、メディアの特性を知る必要がある。なぜ強権・権威主義になるのか。民主化しないのか。民衆は権利をどう訴えているのか。権力者は民衆の声をどう政治に生かそうとしているのか。中国を批判するのは簡単だ。背景を学んで欲しい。</p>
レポート課題 1	<p>大国化し、自信を持って良いはずの中国がなぜ力で国際社会の現状を変更するような強権姿勢を示すのか。権力者が社会をまとめる価値観の観点から考えられる背景を論述せよ（5000字程度）。 留意点： 日本もその中にいる既存の世界秩序は、米国が主役であることを踏まえよ。</p>
レポート課題 2	<p>「天安門事件」について中国政府は「中国の選んだ道は完全に正しかった」と2020年6月に表明した。何をもって正当化できるのか。教材1の参考図書も使いながら論述せよ（5000字程度）。 留意点： 単なる「感情的な開き直り」以外の理由を考えよ。</p>

基本教材 1

第 1 回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第 2 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 3 回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題 1 のテーマを考察する。
第 4 回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題 1 の関連参考図書を渉猟する。
第 5 回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第 6 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第 7 回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題 2 のテーマを考察する。
第 8 回	教材に基づく学修⑧を行い、リポーレポート課題 1 のト課題 1 と課題 2 の関連を考察する。
第 9 回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題 2 の関連参考図書を渉猟する。
第 10 回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題 2 の目次を作成する。
第 11 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 1 を作成する。
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 2 を作成する。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の最終稿を提出する。

基本教材 2

第 1 回	学ぶべき課題について全体的に把握すべく、教材に基づく学修①（通読）を行う。
第 2 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修②を行い、レポート作成までの工程表を作成する。
第 3 回	教材に基づく学修③を行い、レポート課題 1 のテーマを考察する。
第 4 回	教材に基づく学修④を行い、レポート課題 1 の関連参考図書を渉猟する。
第 5 回	教材に基づく学修⑤を行い、目次を作成する。
第 6 回	教員と意見交換し、教材に基づく学修⑥を行い、レポート作成までの工程表を再検討する。
第 7 回	教材に基づく学修⑦（通読）を行い、レポート課題 2 のテーマを考察する。
第 8 回	教材に基づく学修⑧を行い、リポーレポート課題 1 のト課題 1 と課題 2 の関連を考察する。
第 9 回	教材に基づく学修⑨を行い、レポート課題 2 の関連参考図書を渉猟する。
第 10 回	教材に基づく学修⑩を行い、レポート課題 2 の目次を作成する。
第 11 回	レポート課題 1 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 12 回	レポート課題 1 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 1 を作成する。
第 13 回	レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿（草稿）を提出する。
第 14 回	レポート課題 2 に係わる教員の指摘・指導を受け、レポート課題 2 を作成する。
第 15 回	レポート課題 1 ・レポート課題 2 の最終稿を提出する。